第5回
西日本選手権競漕大会開催における
ガイドライン

一般社団法人 大阪ボート協会

1、 基本方針

選手・大会役員や補助員及び来場者の生命・健康の安全を最優先に
注意をはらい、安全第一で競技運営を行えるようにする。

2、 大会開催における前提条件

①：緊急事態宣言の解除
②：開催自治体からのイベント開催が認められている
③：医療機関が新型コロナウイルス感染症患者受け入れに余裕がある状態
④：大会に関わる全ての人の健康状態の管理体制を整える
⑤：ガイドラインに沿った大会運営を行う

3、 大会の開催について基本注意事項

①：大阪府の方針に従う
②：感染拡大の兆候やスポーツイベントにおけるクラスターの発生があった場合
　　大阪府知事の要請等に基づき無観客化、中止、延期等の適切な対応を行う
③：競技会に関わる参加者が「新しい生活様式」に従っている

「新しい生活様式」の実践例

（1）一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の３つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

□人との間隔は、できるだけ２ｍ（最低１ｍ）空ける。
□遊びにいくなら屋内より屋外を選ぶ。
□会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
□外出時、屋内にいるときや会話をするときは、症状がなくてもマスクを着用
□家に帰ったらまず手や顔を洗う。できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
□手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）

※　高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

□感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
□帰省や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
□発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
□地域の感染状況に注意する。

（2）日常生活を営む上での基本的生活様式

□まめに手洗い・手指消毒　□咳エチケットの徹底　□こまめに換気
□身体的距離の確保　□「３密」の回避（密集、密接、密閉）
□ 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養

（3）日常生活の各場面別の生活様式

買い物
□通販も利用
□１人または少人数ですいた時間に
□電子決済の利用
□計画をたてて素早く済ます
□サンプルなど展示品への接触は控えめに
□レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等
□公園はすいた時間、場所を選ぶ
□筋トレやヨガは自宅で動画を活用
□ジョギングは少人数で
□すれ違うときは距離をとるマナー
□予約制を利用してゆったりと
□狭い部屋での長居は無用
□歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用
□会話は控えめに
□混んでいる時間帯は避けて
□徒歩や自転車利用も併用する

食事
□持ち帰りや出前、デリバリーも
□屋外空間で気持ちよく
□大皿は避けて、料理は個々に
□対面ではなく横並びで座ろう
□料理に集中、おしゃべりは控えめに
□お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

冠婚葬祭などの親族行事
□多人数での会食は避けて
□発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

（4）働き方の新しいスタイル

□テレワークやローテーション勤務　□時差通勤でゆったりと　□ オフィスはひろびろと
□会議はオンライン　□名刺交換はオンライン　□対面での打合せは換気とマスク

※　業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

4、 大会運営について

①：主催者が行うこと

1）大会会場において、3密解消の工夫を徹底する

2）頻繁に触れる箇所は清掃・消毒し、会場・施設環境を清潔に保つ

②：大会に関わる全ての人が行うこと

（選手・チーム関係者・大会役員・大会補助員など）

1）自己の体調管理を徹底する

2）日本ボート協会の体調・行動記録シートを使用し、大会1週間前からの体調管理チェックを記入し、大会当日本部へ提出する
また、当日の体調についても大阪ボート協会の体調チェック表を記載し大会当日会場到着後速やかに本部へ提出する

3）過去1週間で発熱等の体調不良があった場合、会場入りせずに自宅待機・療養する

4）大会終了後2週間以内に発熱等の症状があった場合、最寄りの保健所・医師会診療所等に報告、相談し、必ず大会主催者に報告すること

③：大会開催にあたっての感染防止対策

1）3密を回避する

2）ソーシャルディスタンスの確保(基本的に2m、最低1m)

3）こまめに手洗い・手指消毒ができるように会場内の出入り口等に消毒用アルコールを設置し、各水道蛇口付近に石鹸を設置し30秒以上の手洗いを奨励する

4）タオル・水分ボトルは必ず自分で持参(購入)し、自分のものを使用する(貸し借り禁止)

5）屋内では原則、マスク又はフェイスシールドの着用を美務

※マスク又はフェイスシールド不要時の例

・選手は屋外での活動時全般
→レース時、アップ、クールダウン等
COXはマスク又はフェイスシールドの着用を義務

※マスク又はフェイスシールド着用時の例

・屋内での活動時全般
・さん橋での出艇、帰艇の補助等
・ミーティングなどの会話時
・積み込み、積み下ろし、リギング等
→熱中症予防のため、人との間隔を考慮し適宜マスクを外し休憩と水分補給を行う

6）艇庫棟の室内では、常時換気を行うため、扉や窓を閉めない

7）更衣室の滞在は短時間にし、極力室内では私語を行わない

8）例年通り各チームごとにテント等を設置し、パーソナルスペースをとることを推奨するその際テント内の密を防ぐよう工夫すること

9）全ての場所でソーシャルディスタンスを意識し、集団で大声を出して応援は行わない
→出艇時のエール(さん橋等)は行わないようにする
→コース沿いの道は観戦可とするが、ソーシャルディスタンスを意識して間隔を2m(最低1m)取り、横並びで観戦する
→観戦者は、マスク又はフェイスシールドを着用し、近くの応援者との会話は最小限にすること、また大声を出しての声援も禁止とする

１０）大会役員・補助員も健康観察を行い、異常がある場合には業務に従事しない
１１）大会役員・補助員はマスク又はフェイスシールドの着用を徹底する、また場合によってアクリル板等も活用する
１２）大会会場を消毒するために、役員・補助員を割り当て1日複数回消毒等を行う
１３）大会会場において、密を防ぐために対策が行われているか巡回を役員・補助員にて適宜行い、状況によっては声掛けを行い、改善が見られない場合はチーム代表者を通じてペナルティを与える場合もある
１４）競技結果や大会連絡については密を避けるため、掲示板は使用しない、大会HPやSNS等を通じ周知を行う
１５）開会式及び閉会式は行わない
１６）代表者会議は行わない、別途注意事項はHP上で周知する
１７）表彰式は行わない、1～3位までの入賞したクルーの代表者はレース後に本部まで賞状メダルを受け取りに来ること
１８）大会後の積み込みについて、時間を区切りチームごとに行う
各チームの積み込みの時間割は競漕委員会にて作成し発表する
１９）競技終了後、漕艇センター内の人の手が触れる箇所について消毒を行う
また、大会役員・補助員・審判等が使用した機材等についても消毒を行う
（これについては大会初日終了後も行う）
２０）大会終了後、2週間以内に感染の報告を受けた場合、感染の情報を入手し、大阪府の衛生部局に連絡し、指示に従って対応する

◎重要_以下に該当する場合は、自主的に参加を見送ること
・体調が良くない、通常でない場合
・体温が平常時より1.0度以上高い場合(目安37.5度以上)
・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

5、 医療関係・緊急時の対応

①：救護所
1）ソーシャルディスタンスを確保するため、救護所の広さを十分に確保し、医師・看護師の方のいずれかを救護所に常駐させる
2）救護所は、全2室で5床設置予定であり、ベッド間仕切りのため飛沫観戦防止可能なカーテン等を用意する
3）緊急時として2室のうち1室は、新型コロナウィルス感染症の隔離エリアとして設置
②：その他
1）競技中・協議後に体調不良を訴えた関係者に対し、防護体制(マスク、フェイスシールド手袋、眼鏡等)を整えたスタッフで対応する
2）緊急時に備え地元医療機関へ迅速に連絡を出来る準備をする

６、 大会主催者の免責事項

本ガイドラインは関係諸機関のガイドライン等の情報を用いて記載されていますが
使用者の責任において活用するガイドラインです
大会主催者として、最大限安全に考慮して運営を行いますが、大会に関わる全ての方の
新型コロナウィルス感染症への感染に対するいかなる責任を負いませんので、ご理解下さい